

平成30年度 第1回滋賀県公立大学法人評価委員会開催結果（概要）

日 時 平成30年6月25日（月）
15時00分～17時25分
場 所 環びわ湖大学・地域コンソーシアム会議室

【出席委員】 北野委員（委員長）、長上委員、清水委員、前野委員

【事務局】 藤本総務部長、前田私学・大学振興課長、他関係職員

【県立大学】 廣川理事長（学長）、堺井副理事長、倉茂理事、山根理事、田端理事、
久保田事務局次長、他関係職員

○開会

○藤本総務部長挨拶

○委員、大学および事務局の出席者紹介

○委員長の選任

・委員の互選により、北野委員が選任された。

○委員長代理の指名

・北野委員長より、長上委員が指名された。

○委員会の進め方について

・委員会の進め方について、事務局から説明

【議 題】

1. 滋賀県公立大学法人中期目標期間評価に関する実施要領の改正について

（委員長） それでは、議題1の「滋賀県公立大学法人中期目標期間評価に関する実施要領の改正」について、事務局から説明をお願いします。

・ 滋賀県公立大学法人中期目標期間評価に関する実施要領の改正の案について、事務局から説明

（委員長） ありがとうございます。ただいまの説明にもありましたとおり昨年度2月の前回の委員会で改正を承認したところですが、地方独立行政法人法の改正に伴い、改めて改正する必要があるということです。評価委員会が評価を行う主体であり、その基となる実施要領ですので、事務局の案も参考にしながら決めていきたいと思っております。ご意見等はありませんか。

（委員長） もし、ご意見無ければ、この形で進めさせていただきますが、よろしいでしょうか。

（異議なし）

(委員長) それでは、改正案のとおりとさせていただきます。

2. 平成 29 事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について

(委員長) 続いては、次第の 2 番目です。「平成 29 事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)」について、県立大学より大学の概要説明を含め、昨年度の業務実績について説明をお願いします。

- ・ 県立大学の概況について、大学から説明
- ・ 平成 29 事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について、大学から説明

(委員長) ありがとうございます。平成 29 事業年度の実績の報告案ですが、報告書自体の提出締め切りが今月末のため、まだ最終的な報告ではありません。次回以降にも議論の時間をいただきますが、全体を通じて、報告書案から少し離れた質問でもかまいませんので、自由に発言をお願いします。

(委員) アクティブラーニングの講義室を改修され稼働率が上がったということですが、具体的にどのような改修だったのですか。

(大学) アクティブラーニングを行う講義室に固定机は適していません。改修前も移動式の机でしたが、3人掛けで重たく、非常に使い勝手が悪いものでした。それを1人掛け机にし、非常に軽い机と椅子に変え、移動させやすくしました。また、教室に電子黒板を2面設置しました。電子黒板上に画像を投影したり、画像の上に電子ペンで記入することもでき、説明がしやすくなりました。さらに、ホワイトボードを複数配置し、それぞれにグループワークの成果を貼り付け、全員で共有しやすくなっています。結果としてグループワーク、ペアワークがやりやすく、討論型の授業をするのにも向いており、教員から好評を得ています。

(委員) 教育には環境整備がすごく大事ですから、環境を整えれば、学生も生き生きするというのをぜひ証明していただきたいと思います。

(委員) この自己点検評価について、外からは基準協会などから評価を受けていると思いますが、学内ではどのような仕組みで評価、判断が行われているのか、仕組みについて教えていただきたい。

(大学) 大学事務局が原案を作成します。それを役員会議※1で議論し、素案として学内で公開、教職員から意見を求めます。そして自己評価委員会※2で審議し、教育研究評議会、経営協議会を経て、役員会で最終決定が行われます。

(委員) 評価の中で改善課題だと判断された場合には、理事長がリーダーシップを取って改善に取り組むという仕組みができているということでしょうか。

(大学) そのとおりです。P D C Aサイクルをどう回すかということは、第3期でやるべき重点項目であると認識しています。

(委員) 中期目標と中期計画の関係について伺いたいのですが、中期計画の各項目が全て「Ⅳ」評価となった時に目標が達成されたと考えるのでしょうか。

(大学) 年度計画を超えて取り組めた項目が「Ⅳ」と評価しています。スピードが速いという認識です。

中期目標は設置団体である滋賀県で策定された目標であり、それに対して大学がどの様に目標を達成するかを6年間の中期計画として作成します。それをさらに年度毎の計画に落とし込んで年度毎に進めていき、その年度毎の評価を説明させていただいたところです。また、第2期中期計画の評価については、次の次第でご意見をいただくところです。

(委員) 「Ⅱ」評価は実際になかったのでしょうか。普通はあり得ると思うのですが、冷静に判断したときに、もう少し不十分だった、という意見はなかったのでしょうか。

(大学) 平成29事業年度の実績については、議論の中でも、「Ⅱ」ではないかという意見は出まらなかったですが、第2期中期目標期間の実績の議論では、学内から「Ⅱ」ではないかとの意見もあり、役員会等で判断させていただきました。

(委員) C O C事業をN P O団体に引き継ぐことは大変なことだと思いますが、どのように引き継いだのでしょうか。

(大学) C O C事業については、29年度には終わることが分かっていたので、事前に話し合い等の準備を重ねていました。彦根カレッジの場合では、新しい団体を設立し、そこに活動を引き継ぎました。大学として資金は出せませんが、人的リソースについて積極的に協力していくことで、活動を継続していく予定です。

(委員) 特定課題研究の支援は平成30年度の新しい仕組みですが、平成29年度の評価として挙げられているのは、そういう仕組みを作ったことを評価しようということでしょうか。

(大学) そのとおりです。年度計画では、29年度中に仕組みを検討することとしていましたが、29年度中に新たな仕組みを作り、29年度中に30年度に行う研究の募集を開始しております。実際に30年度の研究の採択も行い、研究が進められているところです。

(委員) 中期インターンシップの期間はどれくらいで、効果はどうでしたか。

(大学) 平日で15日間以上を中期インターンシップとしています。実際に中期インターンシップが就職につながったかどうかの結果は、参加した学生がまだ在学中のため、出ていません。

ただし、インターンシップ後の報告会では、1 day、2 day のインターンシップとは全く違う経験ができたということで、参加者からは非常に高い評価を得ています。

一方、学生も夏休みに集中講義等がある中で、15日間を確保するのが難しいという課題もあります。

(委員) 受け入れ企業数は十分でしょうか。

(大学) 初年度37社にお願いし、今年度は50社に増やしています。ただし、マッチングできているのは、全体でみると少ない状況です。

(委員) 夏休みに集中講義などで学生が参加しにくいということですが、インターンシップに参加することで単位が取れる制度にはなっていないのでしょうか。

(大学) 中期インターンシップは6大学で行っていますが、対応は大学によって違います。単位化されているかどうかで、参加率に差が出るだろうとは考えています。県立大学では、単位として認めていますが、卒業要件単位としては認めていません。一方、長期間のインターンシップに参加する学生には就職に対する意識が高い学生が多く、むしろ単位化にかかわらず、インターンシップを申し込んでくる状況です。

(委員) 定員管理について、人間看護学部の定員充足率が97.3%ですが、定員割れしているということでしょうか。

(大学) 定員割れではありません。3年次編入のために10名の枠を設けていますが、短大や専門学校が少なくなってきており、確保できていない状況です。編入生の枠に空きがあり、定員に比べ少ない状況となっている次第です。

第3期の期間中に3年次編入の枠を無くす調整を始めているところです。

(委員) 男女比についてですが、人間看護学部は女子が多く、工学部は男子が多い。全体としては50:50ですが、例えば工学部の女子比率を増やす施策とか考えてはいないのでしょうか。

(大学) そのことについても取り組みたいと考えていますが、まずは教員の課題から検討しています。現在、工学部の教員は全員男性であり、男女共同参画の観点から女性教員の採用を目指していますが、実際に公募してもほとんど女性の応募が無い状況です。女性教員がいて、女子学生が入学しやすくなる、というサイクルにしたいと考えています。

(大学) オープンキャンパスでも、工学部に在学している女子学生から話を聞ける機会を設けるなど、女子高校生をターゲットにした企画を行っています。

(委員) 大学院との接続、内部進学率はどうですか。

(大学) 工学部でいえば、ほとんど全員が内部進学者となっていますが、京都や大阪から通っている学生は地元の大学院を選ぶ傾向にあります。

授業料は同じですが、大学院の入学金が国立大学の方が安いので、そちらを選択する学生もいます。滋賀県立大学の場合、県内在住の学生の入学金は同じですが、県外学生は1.5倍の金額になっています。

(委員長) ありがとうございました。次回以降同様に質疑の時間を取らせていただきますので、お気づきの点がございましたら、ご発言いただきたいと思います。

※1 役員会議・・・常勤役員および事務局次長の会議

※2 自己評価委員会・・・学内の委員会で、滋賀県立大学の教育・研究等の質を保証し向上させるため、自己点検・評価の責任組織として設置された委員会

3. 第2期中期目標期間における業務の実績に関する報告書(案)について

(委員長) 続きまして、3番目の議題に入りたいと思います。「第2期中期目標期間における業務の実績に関する報告書(案)」について、県立大学より業務の実績等についてご説明をお願いします。

・第2期中期目標期間における業務の実績に関する報告書(案)について、大学から説明

(委員長) ありがとうございます。何か全体で気になったことはございますでしょうか。

(委員) 科学研究費(科研費)のように施策を実施し、効果が出ているというのは非常に良いことで、典型的にうまくいっており、教員のやる気が出ていいと思います。採択率自体も上がってきていますが、29年度は新規採択率が下がっています。これはどういった原因でしょうか。

(大学) 制度が変わった影響だと考えています。申請区分や評価の方法に変更があり、対応しきれなかったためだと分析しています。

(委員) 学生相談室の体制を整えられてから、学生のニーズはどうですか。

(大学) 学生相談室の利用は増えています。学生によっては学生相談室等に行くのは悪いこと、弱い人間がすることのような間違った認識がありましたが、だんだんその壁がなくなってきました。今は相談室の予約率が50パーセントで、飛び込みでの相談や健康相談室からつないでもらう例も多い状況です。

(委員) COCあるいはCOC+に取り組みまれて、財産的に残った実績には、どのようなものがあり

ますか。

(大学) C O Cの方は、近江地域学会というプラットフォームを作りましたが、事業終了後もさらに強化を図ることを中期計画に盛り込んでいます。C O C+は終わっていませんが、ポストC O C+について近江地域共育委員会で議論を始めており、何か仕組みを残していくことを一つの財産だと考えています。

(委員長) 時間が迫っていますので、本日はこのあたりにさせていただきたいと思います。この件につきましても、次回以降において引き続き質疑の時間を取らせていただきたいと思いますので、また資料を見ていただければと思います。

事務局におかれましては、各委員からの意見を踏まえて、平成29事業年度事業報告と第2期中期目標期間事業報告に対する評価委員会評価結果案の作成を進めていただきたいと思います。

また、委員の皆様におかれましては、後からお気づきの点などがありましたら、事務局までお寄せいただきたいと思います。それでは、この件については、これまでにしたいと思います。

4. 平成29年度財務諸表等について

(委員長) 議事の4番目です。「平成29年度財務諸表等について」、県立大学から説明をいただいた後、事務局から説明いただきたいと思います。それでは、県立大学より決算の状況等について説明をお願いします。

- ・平成29年度財務諸表について、大学から説明

(委員長) 続いて、事務局から説明をお願いします。

- ・事務局から補足説明

(委員長) 事務局から申し出がありましたとおり、法人評価委員会に意見を聴かなければならない事項ではなくなりましたが、県立大学の運営に関わる事柄でもありますので、ただいまの説明について、ご意見等がありましたらお願いします。

(委員) 外部資金獲得金額が減少していますが、科研費の獲得が減ったことが影響しているのでしょうか。

(大学) 大型の委託事業が終了したため減ったもので、科研費の減少は大きくありません。

(委員長) 他になければ次に移りたいと思いますが、ただいまの財務諸表と大いに関連しますので、新たにご質問、ご意見が出てまいりましたら、改めてご発言いただきたいと思います。

5. 第2期中期目標期間の積立金繰越について

(委員長) それでは、次第5「第2期中期目標期間の積立金繰越について」、事務局より説明を願いたいと思います。

- ・ 第2期中期目標期間の積立金繰越について、事務局から説明

(委員長) 続いて、大学からも説明をお願いします。

- ・ 大学から積立金を財源に充てようとする業務の内容について説明

(委員長) このことにつきまして、ご意見、ご質問等ありましたらお願いします。

(委員) 宿舎の規模はどれくらいを想定しているのでしょうか。

(大学) 留学生70人、それから日本人留学生も一緒に入っていただくことを考えており、こちらが15人というのが、現在の構想です。

(委員長) ありがとうございます。それでは、この件につきましては、これまでにしたいと思います。お金のことはどの大学でも悩みの種で国立大学でも苦しんでおりますが、県立大学においては県がしっかりと財政的措置をしてほしいと考えております。それでは、進行を事務局にお返ししたいと思います。

○閉会